

トマト

あさびより

# 朝日和 もえか



- 高温期でも着果抜群。
- 葉かび病抵抗性(Cf-9)
- 夏秋・抑制裁培向き。

# トマト あさひより 朝日和 もえか

高温期でも着果抜群

## 特徴

- 1 着果が安定** 高温期でも花芽が安定して発生し、着果も良好。花振いが少なく、栽培期間を通じて着果数・果実サイズの波が極めて少ない。
- 2 葉かび病抵抗性** 葉かび病(Cf-9)、萎ちょう病レース1(F-1)・2(F-2)、根腐れ萎ちょう病(FCRR)、半身萎ちょう病レース1(V-1)、斑点病(LS)、ネコブセンチュウ(N)、トマトモザイクウイルス病(Tm-2<sup>a</sup>型)に抵抗性。
- 3 秀品率が高い** 果重は210g程度。果色は濃いピンク色、グリーンベースは薄い。チャック果、窓あき果や果形の乱れが少ない。裂果も少ない。
- 4 果実硬い食味良好** 果肉は硬く、軟化玉の発生が少ない。甘味と酸味のバランスが良く、食味良好。適度な酸味が夏のトマトとして消費者に好まれる。
- 5 栽培容易** 節間はやや短く、栽培管理が容易。草勢は生育全般にわたりやや強く、収穫後半まで安定する。

## 栽培の要点

- 1 台木** 青枯病が発生する圃場では台木を使用する。「朝日和もえか」に最適な台木は青枯病に特に強い「台本命」。
- 2 育苗・定植** 育苗はやや多目の灌水とし、のびのび育てる。定植は第1花房第1花開花始め頃とする。
- 3 元肥** 元肥の10a当たり窒素量は、夏秋栽培が15~20kg、抑制栽培は5~10kgが目安。窒素よりも加里の成分量を多少多くすることにより、果実の色上がりが良くなることが期待される。
- 4 草勢管理** 着果と肥大が良いため、後半まで草勢が落ちないように追肥と灌水を行う。灌水量は従来品種より2割程度多くする。追肥は2~3段開花頃から始め、遅れないように注意する。葉はやや小さく、節間は短く、異常茎は出にくいいため、過繁茂の心配はない。

## 施肥例【エコファーマー対応】

(10a当たり)

夏秋栽培	肥料名	元肥	追肥
	有機アグレット6-6-6	250~330kg	有機原料由来
	草木加里	20kg	有機原料由来
	はつらつ君6-6-6(液肥)		1回20kg 有機態N50%

成分量(kg/10a) 元肥 N:15~20 P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:15~20 K<sub>2</sub>O:21~26

抑制栽培	肥料名	元肥	追肥
	有機アグレット6-6-6	80~160kg	有機原料由来
	草木加里	20kg	有機原料由来
	はつらつ君6-6-6(液肥)		1回20kg 有機態N50%

成分量(kg/10a) 元肥 N:5~10 P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:5~10 K<sub>2</sub>O:11~16

	草勢	早晩性	果形	果重(g)	果色	硬さ	甘味	酸味
朝日和もえか	やや強	中早生	腰高	210	濃桃	硬	中	中

## 適作型

●:播種 △:定植 ■:収穫

栽培歴	月											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地夏秋		●		△		●		△		●		△
一般地抑制						●		△		●		△